

Q. 男女共同参画って知っていますか？

A. 知っています。ジェンダーフリーも勉強したことがあります。

Q. 現役時代、職場での女性の割合はどうでしたか？

A. 男の職場（郵便局）なので課によって違うけど、全体としては1：3くらいだったかな。

Q. 女性リーダーをどう思いますか？

A. 頼もしい。もっと多くのかたが出てほしい。

Q. 旅行は誰と行きますか？

A. 弘前勤労者山岳会の会員だったので大勢で各地へ行った。奥さんもそこにいた。（ニコッ）

Q. 山に登っている時、何を思い何を感じますか？

A. つらい下界でのくらしを一時忘れられて充実感を覚える。

Q. 40代でおじいちゃんになったとき、真っ先に何を考えましたか？

A. 若くして親になった子どもたちの生活＝仕事のことを考えた。奥さんは仕事を辞めて孫育て。私は経済面で協力、若いジジババだったからできたのかも。今は25歳から3歳まで10人のジジババです。（アッハハハ）

Q. これからの女性に望む事はありますか？

A. 我が家では娘3人と妻に対して、男は私一人。女性は強い!! 優しくして欲しい。（笑）

おとこの気持ち
聞いてしまいました



70代・無職・既婚

インタビューを終えて

～良い年齢を重ねましたね～

若いときはアウトドア、今はインドアのような。近所では歌の先生で有名な人である。老人クラブの歌唱指導をしている。クラブに出演依頼があり、弘前はもとより青森まで行っているようだ。楽譜が読めず、持続力の頼りない高齢者たちをハモルまでの域に根気強く指導できることは、寛容、穏やかさ、そしてユーモアのある人だからなのだと思う。

梅

～わたしの若いころには…～



還暦をとっくに過ぎ60代半ばに手が届こうとしているKさん。90代のRさんとの会話の中で…最近のRさん、ついさっきのことはすぐに忘れてしまうのだが、遠い昔のことは昨日のここのように記憶している。「あんだ、とし何ぼになるの？」とRさん。「もうすぐ65歳になりますよ」「だんなも働いでるのが？」「あら、もうだいぶ前に定年になって年金暮らしですよ」「ほお～世の中も変わったもんだのお」「何かおかしいですか？」「んだって、だんなが家さいて、あんだが働いているんだべ？」「そうですよ～今は世の中も変わって年とった女の人でも働けるところが結構あるんですよ」「おらも若いころだば働いたもんだあ、もっと働きたいと思ったけど、嫁っこさ出されだっきゃ、そこでおしまいだあ。家の中さ入れられで、子どもば背負って家の仕事ばり」「それが嫌だったの？」「まわりの嫁っこだちがみんなそうだったからそんなもんだべなと思っていただけ…一生懸命育て息子の顔もろくに見られないんだばのお～」と遠くを見つめるように語ったRさん。かける言葉が見つからなかったというKさんの話を聞いて、その年代に近づいたころ自分は何を考えているのだろうと…。

いつの世代にもある「わたしの若いころ」。そういえば「わたしの若いころ」は今では当たり前とも思われる共働きが増え始めたころで、結婚を機に「仕事」を続けるか「家庭」に入るかで悩む女性が多かった。仕事を続けたとしても育児休業の制度もなかったころだったから「出産」で仕事をあきらめるとい人もいた。そう考えるといい時代になったものだと…



さんかくひとりごと